農地は国の土台

常陸農業協同組合 代表理事組合長　秋山　豊

小学４年生になった息子を隣に乗せ、野球少年団に向かう途中、息子が「お父さん農業て何？」と聞いた。私は「中国語で農は土を膿ますという意味なんだよ」と答えた。息子は「さすがだね」と答えた。

表面的な利益を追求しすぎるあまり、化成肥料や農薬に過度に依存することには、自然との調和がうまく保てなくなるおそれがあるのではないか。農業では、土をいかに作るか、という視点を忘れてはならない。

私は、茨城の県北で枝ものを生産する農家でもある。退職して１haほどの畑を借りオカメ桜や水木、スモークツリー等を植えた。しかし、２列だけほとんどの苗が枯れてしまった。堆肥をやっても石灰を入れても樹勢は回復せず８割枯れてしまい残った苗は虫にやられた。元の地主が耕作をせず除草剤のみに依存して雑草を除去していたことが一つの要因ではないかと思う。

写真　桜の株が枯れた畑、右側２列（筆者撮影）

隣では、サツマイモ農家が畑を３反借りて苗を植えたが、１反は約９割、苗が枯れてしまった。リンゴ園の放棄地を畑地に戻した所だ。放棄地の管理に除草剤を使い過ぎたのではないだろうか。土は、微生物がいなくなると何も分解しない。化成肥料でさえ分解されず植物に吸収されない。膿地では無いのだ。

作家の島村菜津さんは、「土の中から日本を作り直す」と書いた。狩猟により食べ物を得ていた人は作物を作ることを覚え、むらを作り、ルールを作り、国を作った。社会の土台には土があった。膿土を破壊し、不自然な食糧の入手を始めた人間は、自然と調和した本来の生き方そして社会を忘れてしまった。

環境破壊、ウイルス、戦争、AIによる支配、対応が出来なくなった脅威により人類は破滅の危機にある。食い止めようとするなら、初心に戻り土の中から変えるべきであろう。

（あきやま　ゆたか）

農林中金総合研究所
https://www.nochuri.co.jp/